
閉会挨拶

就職問題委員会委員長
大阪成蹊短期大学理事長 中 明 夫 氏

3日間の研修会もいよいよ終わりということになりました。今回、私自身、委員長を仰せつかって初めて研修会に参加させていただきましたが、自分自身が非常に勉強をさせていただいたという感想を持っています。

私は、13年前までは、非常に生々しい競争社会において、30年程、企業経験をし、学校という業界に身をおきました。この13年間の経験の中でも、いろいろと感じるどころがあります。一番感じますのは、教育という業界の中でお仕事をされているいろいろな役割の方がいらっしゃいますが、それぞれが一般の企業とか、あるいは役人の仕事というところとは全然違う専門性を要する仕事を担っておられるということを非常に強く感じました。ところが、それを感じるにつけ、非常に失望感を覚えましたのは、戦後長く教育という業界が存在していたにもかかわらず、それぞれの役割を果す職種の方が、プロフェッショナルでない方が非常に多いのではないかと強く感じております。

この3日間、どのような目的意識をもって参加されましたでしょうか。一般企業で長年仕事をされ、スカウトによって就職担当の仕事をしている方、あるいは学内で、就職部署に配属になって就職担当になられた方もいらっしゃるでしょう。いずれにしても、就職の担当者として仕事をされる以上、他の業種に同じような役割の職種はまずないということをご認識いただき、教育の職場で就職担当のプロというのは、どういうことなのかということをご是非追求していただきたいと思っております。

この3日間の研修会に参加するにあたって、皆様方一人当たりの人件費、実際の宿泊・交通費など、総額にすると膨大なる金額を費やしていると思っております。短期大学協会の企画・運営により、私学研修福社会の支援のもと、このような研修会を毎年開催しているということは、非常に意義のあることと同時に、是非それを生かしていただきたい。学校に帰って、3日間勉強されたことが全部無くなるということになると、私としても、非常に残念な気がいたします。是非これをステップとして、さらにプロとしてどのような仕事をなすべきなのかということの一助にさせていただきたいと思っております。

本研修会が非常に意義のあるものになりましたのは、参加された皆様方のご協力のお蔭であることにお礼を申し上げて、閉会のご挨拶とさせていただきます。